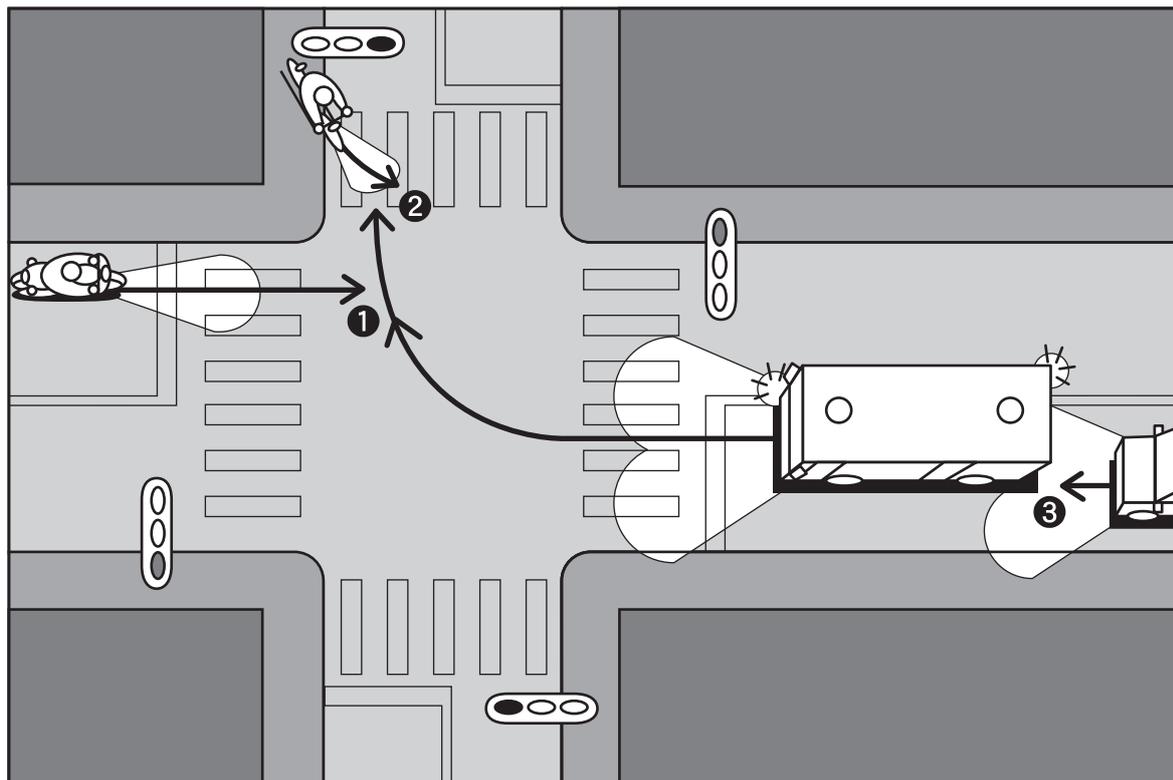


## 〔バス 1〕 夜間の交差点の右折



### 1．主な危険要因の例

- ① 対向二輪車が交差点に接近しており、このまま右折をしていくと衝突する危険がある。
- ② 自転車が横断歩道を渡ろうとしており、このまま右折をしていくと衝突する危険がある。
- ③ 右折しようとして対向二輪車の接近や自転車の横断のために急停止すると、後続車に追突される危険がある。

### 2．安全運転の例

対向車が接近しているときは右折をせずに、対向車の通過を待ち、安全が確認されてから右折する。

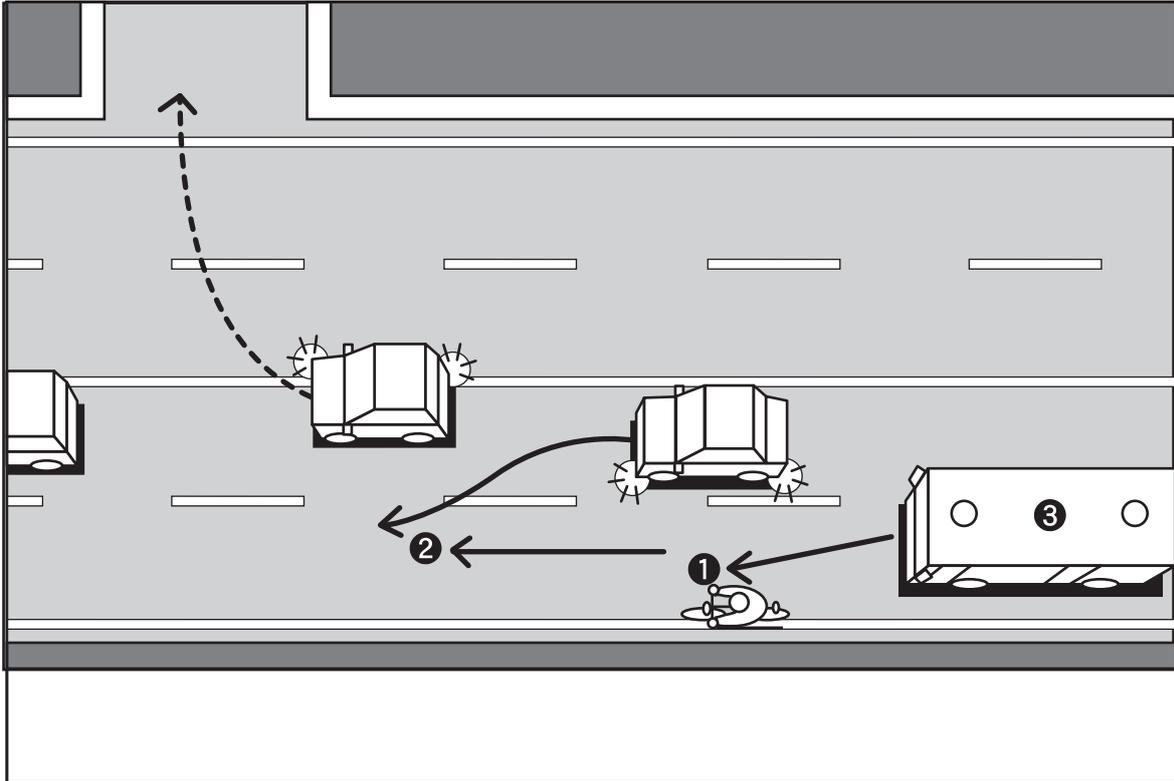
右折していくときは、横断歩道の状況に注意しながら、いつでも停止できる速度で進行する。

### 3．乗務員指導のポイント

次のような夜間の右折時の安全走行の基本について再確認させる。

- ・夜間はヘッドライトしか見えないため、対向車の速度を的確に判断するのは難しいので、対向車があるときは無理をせず、対向車の通過を待つ。
- ・対向車ばかりに注意を向けると横断する自転車や歩行者を見落としてしまうので、横断歩道の状況にもよく目を配る。
- ・右折していくときは、いつでも停止できる速度で進行する。  
急停止は追突される危険だけでなく、乗客の転倒など車内事故の原因ともなるので、急停止しなくてもよい運転を心がけるよう指導する。

## 〔バス2〕片側2車線の道路を走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 自車の前に進路変更しようとしている車を避けるために、左に寄ると自転車と接触する危険がある。
- ② このまま進行すると、自車の前に強引に進路変更してきた車と衝突する危険がある。
- ③ 衝突を避けるために急停止すると、車内で立っている乗客が転倒する危険がある。

### 2．安全運転の例

前方の車が自車の前に進路変更をしてくることが予測される時は、無理に先へ行こうとはせず、速度を落として相手を前に入れてやる。  
急停止や急減速をすると乗客が転倒する危険があるので、徐々に速度を落とす。

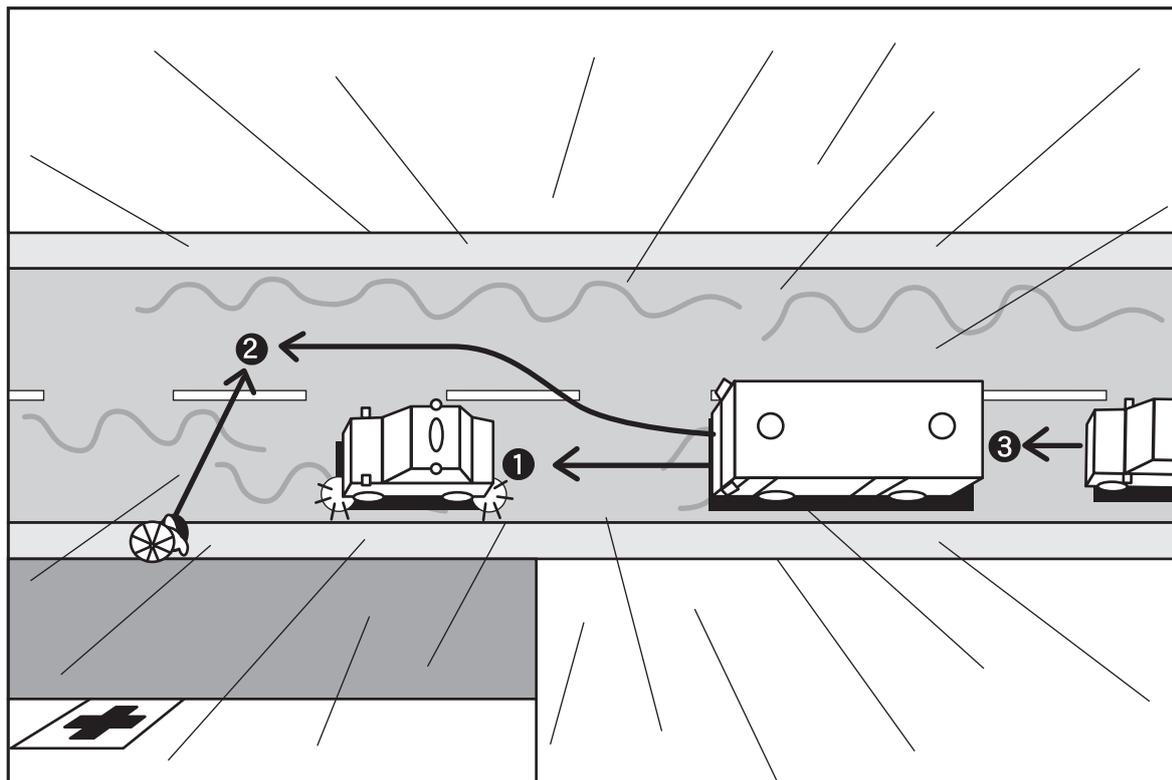
### 3．乗務員指導のポイント

単路の走行時には、他車が急に進路変更をして自車の前に入ってくることがよくあるので、漫然と走行するのではなく、常に他車の動向に目を配るよう指導する。

他車が進路変更をして自車の前に入ろうとしているときは、できるだけ入れてやる。相手に道を譲るということは、マナーの良い運転というだけでなく、危険を生み出さないための運転方法でもあることを理解させる。

前方の状況をよく把握して、他車の動きを読み、急停止や急減速をしなくてもすむような運転を心がけるよう指導する。

## 〔バス3〕雨天時の走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 前方のタクシーが左の合図を出しており、病院の駐車場へ入っていくか、もしくは停止することが予測される。そのため、このまま進行すると減速や停止をしたタクシーに追突する危険がある。
- ② タクシーの前方に立っている歩行者はタクシーを待っているとは限らず、道路を横断してくる可能性もあるので、タクシーを追い越していくとはねる危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

### 2．安全運転の例

乗客を降ろしたり乗せたりするタクシーは、どこで停止するかわからないので、タクシーの後方を走行するときには、あらかじめ車間距離を十分にとっておく。

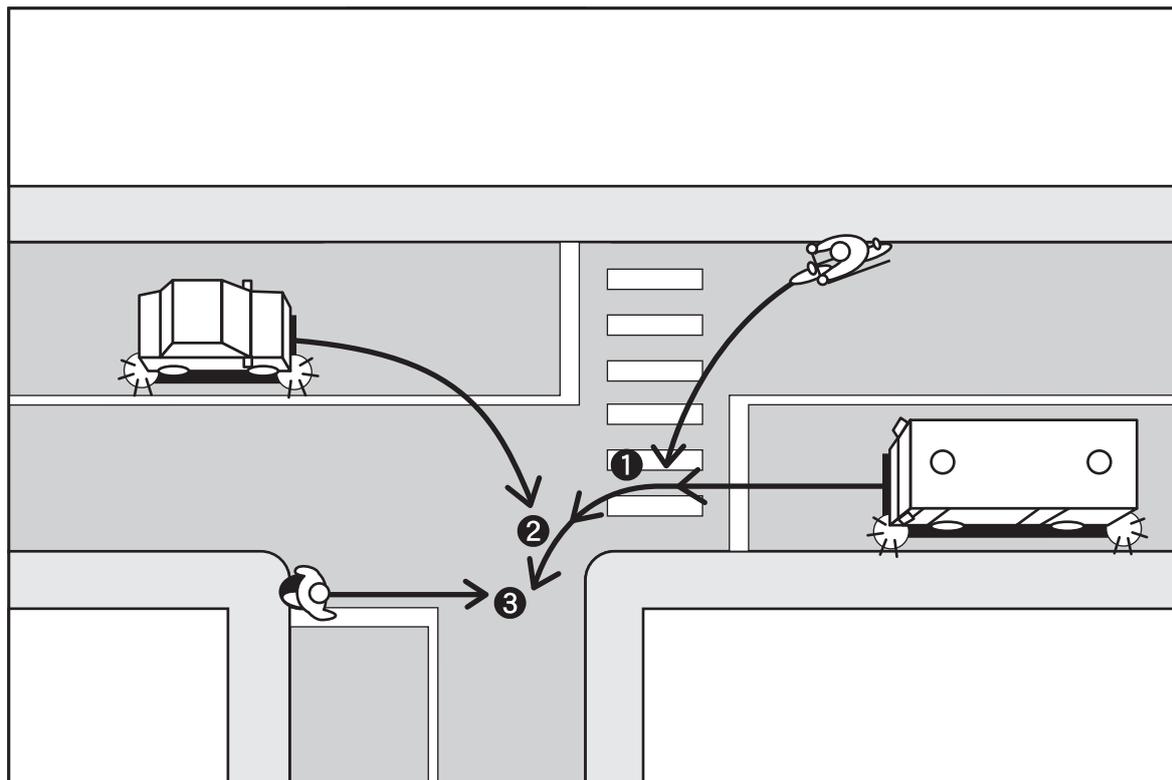
タクシーは病院へ患者を乗せてきた可能性も十分にあるので、タクシーの前方の歩行者をタクシー待ちだと思い込んで、タクシーを追い越すのは危険である。歩行者の動向をよく確認する必要がある。

### 3．乗務員指導のポイント

タクシーの後方を走行するときは車間距離を十分とる、特に雨天時は路面が滑りやすく停止距離も長くなるので、乾燥路面のときよりも長くとるよう指導する。

病院付近は歩行者の出入りも多いので、あらかじめ速度を落として走行するとともに、歩行者の動向によく注意する。

## 〔バス4〕 T字路を左折



### 1．主な危険要因の例

- ① 道路の右側から自転車が横断しようとしており、このまま進行するとはねる危険がある。
- ② 右の合図を出した対向車がそのまま強引に右折してくると、衝突する危険がある。
- ③ 子供がT字路を横断しようとしており、このまま左折するとはねる危険がある。

### 2．安全運転の例

自転車は車の直前を横断するなど危険な行動をとることがよくあるので、自転車の動向に十分注意するとともに、自転車に停止する気配が見られない場合は先に行かせる。

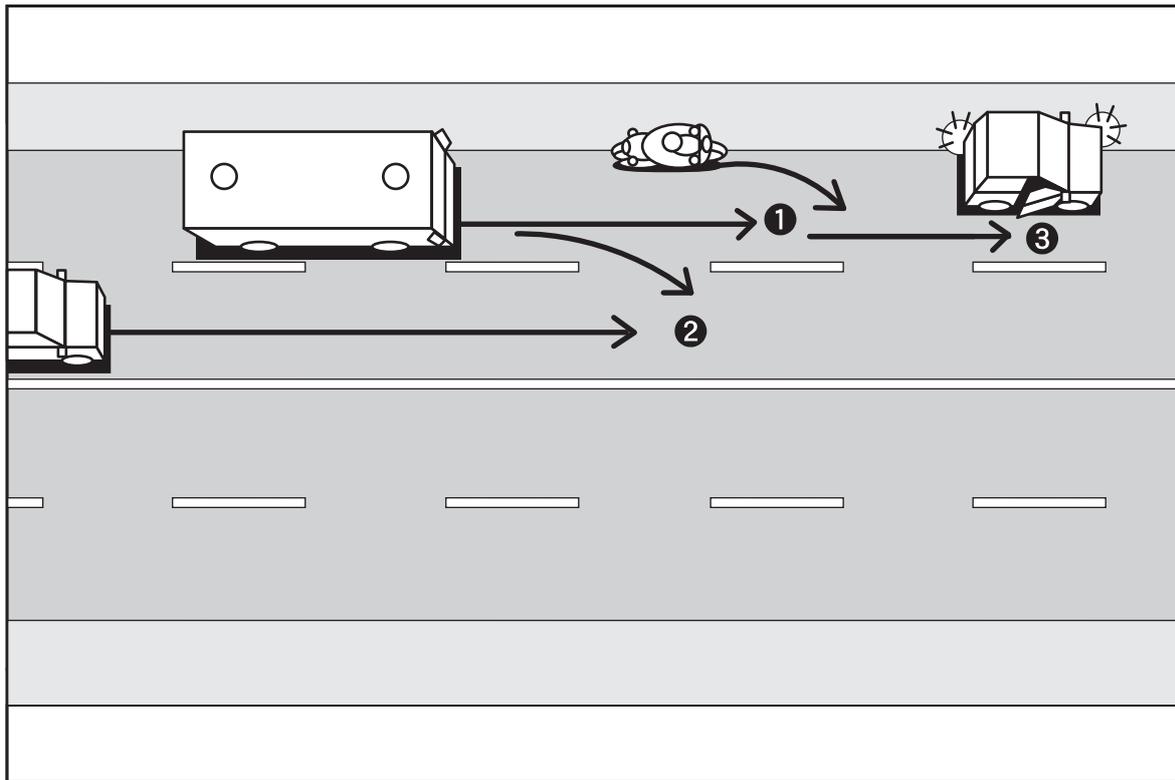
対向右折車や子供の動向に注意しながら、いつでも停止できる速度で進行する。

### 3．乗務員指導のポイント

次のような自転車のとりやすい危険な行動について理解させる。

- ・道路の状況を確認しないで横断してくる。
  - ・後方を確認せずにいきなり進路変更をする。
  - ・信号無視などルールを守らない行動をとる。
- 次のような左折時の安全走行の基本について再確認させる。
- ・早めに左折の合図を出す。
  - ・左後方や左側方、横断歩行者、対向右折車などの動向を確認する。
  - ・いつでも停止できる速度で進行する。

## 〔バス5〕 駐車車両のある道路を走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 駐車車両に進路を塞がれた二輪車が、右に進路を変更してくると衝突する危険がある。
- ② 進路を変更してきた二輪車や前方の駐車車両を避けるために、右側車線に進路変更すると後続車と衝突する危険がある。
- ③ 駐車車両のドアが少し開いており、人が乗車していることが予測される。そのため駐車車両との側方間隔をとらずに進行すると、ドアが開いて接触する危険がある。

### 2．安全運転の例

道路の左端を走行する二輪車は、駐車車両などの障害物のために進路変更をすることがよくあるので、二輪車の動向によく目を配り、進路変更が予測されるときは追い越さないようにする。

進路変更をするときは、必ず後続車の有無を確認し、後続車が接近しているときは通過を待ち、安全が確認されてから進路変更をする。

人が乗車している駐車車両の側方を通過するときには、十分な側方間隔をとる。

### 3．乗務員指導のポイント

二輪車との事故を防止するために、特に次の点を指導する。

- ・左端を走行する二輪車は、障害物のために急に進路を変更することがあるので、前方の状況をよく把握して早めに二輪車の進路変更を予測する。
- ・二輪車は急ブレーキをかけると転倒するおそれがあるので、二輪車に急ブレーキをかけさせないような運転を心がけ、車間距離や側方間隔を保持する。駐車車両の側方を通過するときには、十分な側方間隔をとるよう指導する。